

特集

こども環境会議体験発表レポート

僕たち

私たちで

地球をキレイにするぞ



たいひ作り

皆さんは、自分が住んでいる家の周辺環境をどのように感じていますか？

近くの川はきれいな川だと感じますか？公園にごみなどが落ちたりはしていませんか？そんな身近な環境を少しでもよくしていきたいという思いから、町内の小学校児童たちは、毎年環境改善の取り組みを行っています。

今回は、その中からこども環境会議で発表を行った中央小学校と荻谷小学校4年生の皆さんの取り組みを紹介し、環境についての意識を高めていきたいと思います。

中央小学校

エコぴか大作戦
自分たちでできることを



中央小学校の児童たちは、愛・地球博でキッズ・エコツアーに参加しました。万博では、ごみを減らすいろいろな工夫がされていることやごみの分別もすっかりされていることに感心しました。そこで、自分の身の回りのごみがどのように処理されているのか興味を持ち、調べることにしました。

まず、学校のごみ捨て場を調べてみると、思ったよりもたくさんのごみが出されていました。次に、ごみステーションを調べると、ごみを何種類にも細かく分別していました。なぜそんなに細かく分別する必要があるのだろうかと考えた児童たちは、エコプラザに見学に行くことにしました。



ごみ捨て場の様子

エコプラザでは、ごみとして集められたものがリサイクルされていることを知りました。そこで、「エコぴか大作戦」として、環境をよくするために、いくつかのチームに分かれて自分たちでできる活動に取り組みました。

①ごみ拾い

学校や家の近く、神社のごみ拾いを行いました。近所の人から「ごみが落ちていないとごみを捨てる人が少なくなるねえ」と言われ、ごみ拾いの成果を感じることができました。

②廃油石けん作り

家庭から出る、揚げ物などで使用済みの油を使った石けん作りを行いました。廃油石けんは合成洗剤よりも環境にやさしく、また汚れも落ちやすいと好評でした。



廃油石けん作り

③竹炭作り

学校に保管してあった竹をオイル缶につめ、運動場の砂場にうめて焼きました。長持ちする燃料が手軽にできました。



竹炭作り

④リサイクル工作

牛乳パックやペットボトルを使って、椅子や小物入れ、箸置きなどを作りました。

⑤給食の残飯処理活動

ミミズによる生ごみ処理の様子を見学し、これを活かしていこうとして考えたのが、ミミズを使って給食の残飯処理を行うことでした。また、ミミズのふんは栄養がたくさん含まれていることも知りました。

⑥袋ことわり隊

児童たちは、資源は限りあるものであること、地球温暖化により水面下に沈んでしまう国があることを勉強しました。そこで、資源の無駄遣いを無くし、地球温暖化を防ぐにはどうしたらいいかを考え、スーパールのレジ袋を少しでも減らし、エコバックを使うように呼びかける「袋ことわり隊」を結成しました。

調査の結果、エコバックを使用している人は全体の10割ほどで、エコバックを使わない理由で最も多かったのが、レジ袋をごみ袋として使いたくないということでした。レジ袋を使わないことが資源の無駄遣いと地球温暖化を防ぐことを伝えました。



袋ことわり隊

⑦エコぴかマーケット

家で使わず眠っている物や、みかんの皮の入った手作り廃油石けんを商品としてフリーマーケットを行いました。当日は、CDケースで作った写真立て、牛乳パックのペン立てなどのリサイクル商品をプレゼントするコーナーもあり、大盛況でした。また、フリーマーケットの売上金を使って、緑を増やそうと考え、菱池保育園にキンカンの木を贈りました。



エコぴかマーケット

児童からひとこと

私たちは活動をしていく中で、リサイクルすることも大切ですが、ごみを出さないことがもっと大切だということに気づきました。限りある資源をみんなで大切に使うことで地球環境を守っていききたいと思います。

荻谷小学校

草とりの草をたいひにしてパンジーをたくさん咲かせたい



荻谷小学校の児童たちは、しだれ桜で有名な幸田文化公園を、もっときれいな公園にしようと取り組みを行いました。

文化公園を見つめよう

5月初旬、文化公園全体の様子を見て回りました。桜を見に来た人が、ゆっくり休憩できる屋根付きのベンチ。小高い山の上まで歩きやすいようになっている道。他の公園では見られない工夫を見つけました。

しかし、草がたくさん生えていたり、落ち葉やたばこの吸い殻が落ちていたりするとこもありません。そこで、草取りやごみ拾いなど自分たちでできることは何かを話し合い、活動を始めることにしました。

たいひ作りスタート

5月下旬、文化公園を支えているしだれ桜保存会のかたたちと一緒に、草取りや桜の木の根元にこえをおく作業を行い、同時にたいひ（注）作りも始めました。集めた草は、文化公園のたいひ置き場へと運び、にわたりのふんや土と一緒に混ぜ合わせました。

また、自然観察会も行いました。かぶれ木の見分け方、松の木の種類、桜の実を取って食べてみたりもしました。



自然観察会

児童たちは、本やインターネットでたいひについて調べ、材料として普段食べている給食の残飯も利用できることを知りました。そこで、たいひの中に給食の残飯を入れに行きました。

7月、たいひの切り返し作業を行いました。たいひを混ぜることで、たいひ全体がうまく仕上がるのです。

たいひを使ってパンジーを育てよう

8月下旬、パンジーの種を一粒ずつまきました。桜の花が満開になる季節に、美しく咲く花ということでパンジーを選びました。

そして、10月、パンジーの本葉が出てきたころにたいひの様子を見に行きました。そして、たいひは学校の土と混ぜ合わせ、パンジーは黒いポットに植え替えました。

12月にはパンジーの苗を文化公園に持っていきましました。たいひを使いパンジーが育ちやすい土を作りました。パンジーは文化公園の駐車場に植えました。

(注)たいひ・・・土中の環境を良くする優れた土壌改良材



パンジーを植える児童たち

児童からひとこと

パンジーの苗は全部で210本植えました。桜の花が満開に咲くころ、パンジーの苗が元気に育って、花をたくさん咲かせてほしいと思います。4月になったらぜひ、幸田文化公園に来て、桜やパンジーの花を見に来てください。

鉄崎幹人氏によるトークライブも行われました

こども環境会議中では、今回取りあげた荻谷小学校と中央小学校の体験発表のほか、アウトドアタレントの鉄崎幹人氏によるトークライブも行われました。その中で鉄崎さんは、庄内川(名古屋市)のアユやシジミを食べるなど、体を張って川の汚れを体験し、「大事なことは、食べ残しをしないこと。作ってくれた人に感謝の気持ちをお忘れなくください」と話されました。



環境を良くするための取り組みはすべて大変なものばかりではありません。「油をそのまま捨てない」「洗剤の使用量を減らす」などに少し気をつけるだけで、川の汚れを最小限に留めることができます。また、簡単なガーデニングを行うことが緑を増やすことにもつながります。私たち一人ひとりが、自分たちでできることをする、これが地球環境を守ることにつながっていくのです。

